

歯科インプラント (人工歯根)

ご紹介

野村歯科医院 <http://www.nomurashika.info>

〒154-0024

東京都世田谷区三軒茶屋1-36-14

電話03-3421-0800 FAX03-3418-0800

歯科インプラントとは、純チタン・チタン合金製の人工歯根を直接あごの骨に埋め込み、それを土台として上部に人工の歯、または、ブリッジを作る方法です。

最近では、インプラントを土台として、安定しない義歯を動かなくするための、固定源に利用する頻度も高くなっています。

私が15年間勤務していた東京歯科大学では、1983年の適応開始以来、すでに40年間が経過して10000人以上に施され、下顎では95～98%、上顎では90～95%の非常に高い成功率を収めています。

野村歯科医院では、日本製のインプラント(GC社製～日本の歯科材料のトップ企業です)を使用しています。特徴としては、made in japanということもあり、信頼性・精密性が際立って高いこと、世界情勢などの影響を受けにくく、部品の欠品などの事象が起こりにくいことです。

表紙にありますアドレス(ホームページ)にアクセスいただきますと、私が手がけたインプラントの症例の一部をご覧いただくことができます。(「野村歯科ホームページ」→「症例」→「2本歯がない部分を直す場合」、他3症例ございます。)

口腔インプラントの一般的な診療順序

① 電話、または、受付にて診査日の予約

② 口の中の診査、レントゲン写真の撮影

③ レントゲンの結果、治療方針の説明

- ・治療日程の概略: 次ページより説明いたします

- ・必要な費用(税込み):

- ・インプラントに先立って必要な処置・治療の提示

- 一例 ○口の中の清掃指導(ハブラシなどの指導)

- 虫歯治療

- 歯槽膿漏の治療

- 治らない歯の抜歯

- 噛み合わせの調整

- インプラントが入るまで使用する義歯の製作

- 骨が足りない場合の骨増生

など

2026年 月 日 : 来院

④インプラント埋入手術(1次手術)

骨にインプラントを埋め込む手術です

1. 術部の清掃消毒を行います。
2. 局所麻酔および必要に応じて^{*}鎮静剤を飲みます。
3. 術部の粘膜を切開し、骨面を露出後、骨に穴をあけてネジ状のインプラントを埋めます。
4. 縫合を行い、インプラント上部に連結した仮のねじを少しだけ露出させておきます。場合により、インプラントを完全に粘膜で被覆する場合もあり。 : 手術終了

:
手術開始

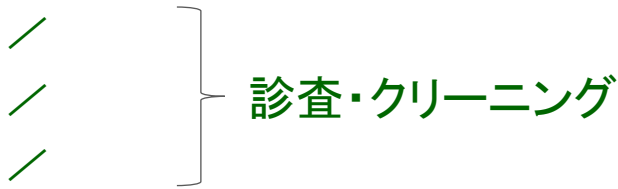
*** 鎮静剤**を飲むと半分眠ったような状態になり、手術時間が短く感じられる、術中の恐怖感が軽減されるなどの利点をもたらされます。

:
帰宅

- 手術時間は埋めるインプラントの数にもよりますが、口の中の清掃、麻酔および術後のリカバリー(止血など)を含めて**1時間~2時間**です。

↓ 7~10日後に、抜糸を行います。
2~3ヶ月間、インプラントが骨にくっつくのを待ちます。

術後1日~1週間は、インプラントを埋めた部分に入れ歯を付けることができません。そのため、総入れ歯などを使用している場合には、その間、流動食に近いもの(お粥、小さく切ったうどん、など)を食べていただく必要があります。



⑤インプラント連結処置(2次手術)

ー 現在では行わない場合がほとんどです ー

歯肉の下に埋まっているインプラントを口の中に露出させる処置です。1次手術に比べて、非常に軽微な処置です。

1. 術部の清掃消毒を行います。
2. 局所麻酔および必要に応じて鎮静剤を飲みます。
3. インプラントの埋まった部分の歯肉をほんの少し切り、インプラントの頭を露出させ、その上部に金属をつけます。
4. 縫合を行い、止血を待ちます。

。口の中の清掃、麻酔および術後のリカバリー(止血など)を含めて**30分～2時間**です。

↓ 1週間後に、抜糸を行います。
さらに1週間程度、傷が治るのを待ちます。

術後すぐに義歯を装着することもできますが、傷の上へのせることになるので、理想的には1、2日間は入れ歯を付けない方が傷の治りが早く、また、その後の処置も出血や痛みが少ない状態で行うことができます。

⑥ブリッジの型をとります。

↓ 1～2週間

⑦噛み合わせをとります。

⑥と⑦は、同日に可能な場合もあります。

↓ 2週間程度

⑧インプラント仮歯(プラスチック製)の装着

仮歯を作らないで、最終的な歯をすぐ作ることも可能です

↓ 仮歯を作った場合は1～2ヶ月間、仮歯の調子を見ます。

⑨インプラント本歯(ジルコニア、陶材、ハイブリッド材料などで製作)の装着

⑩装着後、定期的な診査を行います。

装着後1, 3, 6ヶ月。後は6ヶ月間隔の検診です。

インプラントの上部に装着した人工の歯、ブリッジは一般的な金属冠や差し歯と同じものですので、5～10年以上経過すると経時劣化を起こし、交換を要する場合があります。なお、体に埋まっているインプラントについては基本的に交換の必要はありません。

口腔インプラントに関する 疑問に答えます！

誰にでもできるのですか？

インプラントをあごに埋め込むためには、歯が抜けたあとのあごに、一定量以上の骨の厚みと高さが必要です。これは、レントゲン写真を用いて調べることができます。

抜歯後すぐにできるのですか？

インプラントを埋め込むためには、しっかりした骨が必要ですので、抜歯直後の軟らかい骨は適しません。すぐに埋め込む事が可能な場合もありますが、一般的には、抜歯と同時に骨増生術を行って、その後6ヶ月以上骨ができるのを待ちます。

骨が足りない時はできないのでしょうか？

あごの骨が足りないときには、残念ながらインプラントをすぐに埋め込む事はできません。しかし、自分の骨の移植、もしくは、人工骨を補填することにより可能になる場合もありますので、ご相談ください。

健康保険はきくのですか？

口腔インプラントは**健康保険の給付対象外**です。

どのくらい長く持つのですか？

世界的には40年以上、私の症例では20年以上経過している症例が多数あります。インプラントは自分の歯と同じ強度ですから、歯磨きをしないと抜けてしまった歯と同じ運命を辿りますが、1日2度以上適切な方法により清掃を行えば、周りの歯が残っているのにインプラントだけが先に抜けてしまうことはほぼありません。ただし、①自分の歯が多く抜けてしまい、他に噛むところがないなどの理由で**インプラントの部分だけで長期間**(1年以上)噛んでいた、②**歯ぎしりや食いしばり**を頻繁に行っている、③全身疾患(特に腎臓病や肝臓病、**糖尿病**)を患った、④**抗がん剤治療**を受けた、⑤頭頸部の**放射線治療**などを受けた、⑥骨粗鬆症の薬の服用を開始した、など様々な理由により、早期に(5年以内に)インプラントが抜けてしまった報告があります。

ウシなどから採取した生体材料を使用することがあるのですか？

当院で行っているインプラント手術においては、手術を受けている本人以外から採取した骨や生体材料、骨補填剤(例:炭酸カルシウム、ハイドロオキシアパタイト、コラーゲン、 β -TCPなど)を、**患者様のご承諾を得ずに**インプラントの周囲に添加することはありません。